

(様式 5-1)
(振興局調整費)

地域重点施策推進事業事後評価調書(令和2年度実施分)

地域振興局名 北秋田地域振興局

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費(円)	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
直売果実の長期販売力向上事業	農林部	齊藤 英樹	農業振興普及課	産地・普及班	0186-62-3950	管内の農産物直売所では農閑期の農産物の品不足が課題となっているほか、コロナの影響が続く中で宅配セット等の新たな販売アイテムが必要とされている。 りんごで長期貯蔵販売の可能性が確認されたスマートフレッシュ技術を日本なしにも導入することで、新たな販売アイテムを増やし栽培農家の所得向上に結びつける。	261,116	①スマートフレッシュ実証 (9月28日、10月8日) ②果実品質調査 (9月29日、10月6日、10月13日、10月20日、10月27日、11月6日、11月17日、12月1日、12月22日、1月6日、1月21日、2月5日、2月18日、3月3日、3月18日) ③生産者試食会 (12月23日) ④食味調査 (12月23～24日)	県	農業者	令和2年8月20日 令和3年5月20日	①全国的に日本なしにおけるスマートフレッシュの処理事例は少なく、不明な点が多かったが、中晩生品種に対しての処理実証および果実調査により、当地域で栽培が多い中生種「あきづき」の薬剤親和性が高く、通常冷蔵より1ヶ月程度貯蔵期間を延長できることが確認できた。 ②年末までの販売可能性が見出されたことにより、これまで高品質での提供が難しかったりんごで日本なしのセット販売ができるようになり、ふるさと納税返礼品等を通じて、当地をりんご・日本なし産地としてPRできることが期待される。	・本実証に際して、スマートフレッシュ処理の施設整備をしたことにより、令和2年度から直売所事業として取り組んでいる、りんごのスマートフレッシュ処理にも活用でき、継続的に処理費用の低減が可能となった。 ・ふるさと納税返礼品や年末贈答用への活用可能性が示唆されたことにより、コロナ禍に対応した販売環境整備の一助となったと考える。 ・令和3年度は地域施策推進事業として、スマートフレッシュ処理を活用し、輸出等も見据えた更なる販売チャネルの拡大に向けた支援を行う。
地域担い手確保・育成PR事業	建設部	工藤 利一	企画・建設課	企画監理班	0186-62-3111	建設業界の担い手確保が喫緊の課題であるため、建設業のPRパネルを製作し、管内の技術系高校の生徒へ建設業の仕事内容や魅力を伝えることにより、建設業界への入職興味を持ってもらい、建設業界への入職促進を図る。	148,550	建設業担い手確保のPRパネルを製作し、展示・PRを行う。	県	管内の技術系高校の生徒	令和2年11月5日 令和3年5月20日	・パネルの内容について、建設業協会や各校の先生方に聞き取りした結果、ほぼ良好であったことから、一定の成果があったものと思われる。	・例年、2月に実施している高校の出前説明会は、説明会時のみの企業PRとなっていたが、その後2週間程度このパネルを常設することで、参加した高校生の建設業界への意識継続に効果があったものと考ええる。 また、常設することで参加していない他の生徒の目にも入ることとなり、建設業への興味を持ってもらうことの一助として一定の効果があったものと思われる。

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費(円)	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日 (部局長会議等)及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
交通インフラを利用した伊勢堂岱遺跡PR事業	総務企画部	土門 啓介	地域企画課	企画・観光振興班	0186-62-1251	・世界文化遺産候補「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、令和3年7月に開催される世界遺産委員会で審議される見込みとなったことから、遺跡群を構成する「伊勢堂岱遺跡」について、登録へ向けて地元の機運を一層盛り上げるとともに、県内外での認知度を向上させて登録へ弾みをつける必要がある。 ・このため、県内外の人が接する機会が多い交通機関の施設を利用して、世界遺産登録へ向けて効果的な周知を図る。	433,587	①阿仁合駅ウエルカムステーションでのパネル展示 展示期間: 2月4日(木)～3月3日(水) 縄文列車の完成時期に合わせた。 ②大館能代空港電照広告掲出 展示期間: 1月1日(金)～3月31日(水) ③オリジナルミニカイロの作成 作成時期:令和3年1月 作成個数:2,000個 頒布機会: 内陸線秋田縄文号お披露目会・モニターツアー、縄文館講座、阿仁合駅ウエルカムステーション設置、大館能代空港設置、縄文館に寄贈。 ④オリジナルポケットティッシュの作成 作成時期:令和3年2月 作成個数:15,000個 頒布機会: 内陸線秋田縄文号お披露目会・モニターツアー、縄文館講座、阿仁合駅ウエルカムステーション設置、大館能代空港設置、管内等の道の駅設置、縄文館に寄贈等。	県	観光客	令和2年11月9日	交通機関(秋田内陸線、大館能代空港及び道の駅)の施設利用者等に世界遺産登録を目指す伊勢堂岱遺跡を周知することができた。 ①阿仁合駅ウエルカムステーションへの来場者数 2月:1,403名 3月:839名 ②大館能代空港利用者数 1月:1,052名 2月:840名 3月:1,357名 合計 3,249名 ③オリジナルミニカイロを延べ2,000名に配付しPRすることができた。 配布先 ・内陸線 1,000個(秋田縄文号お披露目会、モニターツアー、ウエルカムステーションでの配付) ・縄文館 500個 ・大館能代空港 200個 ・縄文館講座 200個(残部はコムコムで配付) ・局内使用 100個 ④オリジナルポケットティッシュを延べ8,500名に配付しPRすることができた。 配布先 ・内陸線 1,500個(秋田縄文号お披露目会、モニターツアー、ウエルカムステーションでの配付) ・縄文館 1,000個 ・大館能代空港 1,000個 ・縄文館講座 500個(残部はコムコムで配付) ・道の駅 たかのす 500個 かみこあに 500個 ふたつい 1,000個 やたて峠 500個 ひない 500個 あに 500個 ・鹿角地域振興局 500個 ・大湯ストーンサークル館 500個	・令和3年7月に、「北海道・北東北の縄文遺跡群」がユネスコ世界文化遺産に登録される期待が高まっていることから、地元の機運の醸成と県内外への魅力発信を強化していく必要がある。 ・引き続き観光イベント及び観光施設等でのPRを行い、登録に向けて一層の県内外での認知度向上を図る。
											令和3年5月20日		

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費(円)	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日 (部局長会議等)及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
市村を越えた移住者との交流促進事業	総務企画部	土門 啓介	地域企画課	企画・観光振興班	0186-62-1251	・管内市村には移住者(地域おこし協力隊)として活躍している人材がいるが、これまでその活動範囲は所属する市村の範囲内にとどまるとともに、各市村は自市村以外の移住者の情報を把握することができていなかった。 ・地域で活躍する移住者の情報を管内市村で共有し支援することは移住者と移住者の結び付きや移住者と地域の結び付きを深め、定住意欲を喚起するとともに、地域の魅力を高めることを通じて移住の促進にもつながる。 ・このため、管内市村による移住者情報についてのネットワークの構築と移住者による市村の枠を超えて企画する取り組みについて支援が必要である。	13,822	①移住者協業によるお菓子作り教室 ・令和2年12月12日(土) 市民ふれあいプラザコム 主催:大館市、北秋田市、上小阿仁村の地域おこし協力隊員 参加者:8名 ②移住者協業によるバレンタインワークショップ ・令和3年2月11日(木) 上小阿仁村福祉センター 主催:大館市、北秋田市、上小阿仁村の地域おこし協力隊員 参加者:7名	県	移住者及び地域住民	令和2年11月27日	・管内市村の担当者との会議で、管内市村において地域活動に取り組む移住者の情報を共有したうえで、管内市村の移住者によるイベントの開催を支援した。 ・イベントは2回開催。主催者を含め延べ21名が参加し、参加者同士の交流の場となった。 ・参加者合計 延べ21名(内、移住者9名、一般参加者12名)	・移住者同士、又は移住者と地元住民の交流により、移住者の定住意欲の喚起と地域活動への参画の動きを促進するため、移住者の参加者を増やしながら活動の輪を広げていく必要がある。
											令和3年5月20日		